

分娩受け入れ枠100件増

助産師 増員 廿日市・大竹市が支援

J A 広島総合病院

廿日市市のJA広島総合病院は、2010年度の分娩受け入れ枠を前年度より約100件多い720件に増やす。助産師不足の中でハイリスク分娩を優先するため、正常分娩受け入れを一部制限してきたが、廿日市、大竹両市などの支援で4月から助産師を増員。産婦人科医師も増やす。

(村上和生)



どうする地域医療

現在、同病院の産婦人科医師は5人、助産師は県の出向者を含めて17人。4月から医師は1人増の6人、助産師は1人が県へ戻るものの、5人増員して21人態勢となる。このうち助産師3人は同病院の在籍看護師で、廿日市、大竹両市が09年度始めた助産師育成のための奨学金への助成を活用、資格を取った。10年度も在籍看護師4人が助産師の資格取得を目指す。うち3人は助成を受ける。退職者がいなければ、11年度は25人態勢となる。同病院の09年度の分娩件数は624件となる見通し。06年度には近隣病院の分娩中止などの影響で708件に上った。だが、07年3月に助産師12人のうち5人が退職。基幹病院

4月から分娩態勢を強化するJA広島総合病院

52件に減っていた。このため、廿日市、大竹両市が助成制度を設け、助産師育成を支援。同病院も昨年、県の派遣などで助産師を3人増員し、分娩件数を増やしてきた。同病院は「正常分娩の里帰り出産は4月以降も受け入れ制限を続けるが、態勢が整い次第解除したい」として産を制限、08年度は5

宮島口でミニコンサート

廿日市市宮島口ー宮島間を運航するJR西日本宮島フェリーは4月1日、宮島口棧橋前の特設ステージで営業開始1周年を記念したミニコンサートを開く。午前10時20分と同11時に、市内在住の音楽家グループ「リベラ」が「日本の四季メドレー」「いい日旅立ち」など4〜5曲を演奏する。また午前10時〜11時55分、宮島口棧橋から乗ったJRフェリーの客に、2千円分のギフト券が当たる抽選券(2千枚限定)を配る。同社はJR西日本の100%出資で昨年2月に発足。同年4月、JR西日本から航路を引き継いだ。☎0829(56)2045。



「から収納業務を始める情報プラザつばき館」